

# 教育相談

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 田中 陽子

■使用テキスト 鎌倉利光・藤本昌樹 編著 『子どもの成長を支える発達教育相談』[第4版] 北樹出版

◆参考テキスト

## 講義概要・一般目標

「教育相談」では、教育現場において必要な教育相談の知識を習得（DP4）し、生徒理解を深めること（DP1）を目的とする。そのため、まず教育相談の基本的な考え方を踏まえ、生徒のいろいろな問題行動におけるその特徴、原因や背景および予防・対応策としての生徒へのかかわり方などを概観する。そして特別支援教育も含めた子どもの様々な問題、また支援にかかわる保護者を含めた学校内外の連携など最近の学校現場で必要な知識を広く学ぶ（DP3）。そうして、最近問題が増えている教育現場で、教育相談を積極的に展開すること（DP2,5）を望む。

## 学修目標

- 1) 教育相談の概要（支援する領域・方法・システムなど）を説明できる。
- 2) 子どもの心身の発達を理解し、その特徴を説明できる。
- 3) 子どもの発達の問題と支援方法について説明できる。
- 4) 学校生活の中での子どもの問題と支援方法について説明できる。
- 5) 学校内外の相談体制と連携について説明できる。
- 6) 子どもや保護者の支援のための基本的な精神医学・臨床心理学の専門知識を身につける。

## 評価方法

科目単位認定試験により評価。

## 学習指導

### 第 I 部 子どもの発達の問題とその支援

#### 第 1 章 子どもの発達の特徴

##### この章のポイント

子どもが大人になる発達の過程には、身体的にも精神的にもいくつもの課題がある。それを踏まえて、その時期の子どもにあった教育内容と方法を考え、実行しなければならない。まずは子どもの発達の特徴を概観する。

#### 第 2 章 子どもの発達の特徴をとらえるためのアセスメント

##### この章のポイント

目の前にいる子どもの特徴は、しっかりとアセスメントによって把握されなければならない。そのため発達相談・教育相談におけるアセスメントの意義をあげ、その方法・種類を学び、実施の注意事項を学ぶ。

#### 第 3 章 子どもの発達の問題

##### この章のポイント

2003 年の文部科学省の調査に引き続き、最近の調査でも通常学級に在籍する児童生徒の約 6% に発達障害に類似した傾向のあることが明らかとなった。ここでは、子どもの発達の問題として発達障害、特に自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害の特徴と学校での対応について学ぶ。ただし、発達障害については、続々と新しい見解が発表されている。この章を糸口とし、最新の情報をもって対応することが望ましい。

## 第4章 特別支援教育とは

### この章のポイント

2006年に学校教育法が改正され、特別支援教育が始まった。特別支援教育とは何か、具体的に何が行われるのかを学ぶ。そして、子どもたちの一人ひとりのニーズに合わせた教育を考える一端としたい。

## 第Ⅱ部 学校生活に関わる子どもの諸問題とその対応

### 第5章 不登校の問題とその支援

#### この章のポイント

不登校の現状を踏まえ、その理解と対応を学ぶ。また、学校以外の援助資源にも触れる。不登校などいわゆる子どもの問題行動の現状については、文部科学省が毎年「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」を行っている。各自でその動向を確認することが望ましい。

### 第6章 子どもの問題行動とその対応

#### この章のポイント

子どもの問題行動には、学校で集団で活動するために起こる非行や学校の荒れ、いじめなどがある。それらの現状を踏まえ、その理解と対応を学ぶ。非行については、法務省の「犯罪白書」や警察庁の「少年非行等の概要」で最新情報を確認することが望ましい。また、いじめ等については不登校と同様に文部科学省の調査がある。

### 第7章 子どもの社会性の問題とその支援

#### この章のポイント

最近の子どもの特徴として、社会性の問題が注目されている。たとえば、自分を客観的に見たり、相手の身になったりすることが苦手だといわれている。また、自己コントロールができず、キレることも問題視されている。ここでは、そのような問題の内容を把握し、その対応を検討する。

### 第8章 教育相談に関わる精神医学

#### この章のポイント

時に子どもの問題行動の背景に精神障害がある場合がある。そのため、基本的な精神医学の知識はあったほうがよい。ここでは、子どもの精神疾患の特徴とその基本的な対応について学ぶ。

### 第9章 学内外の相談体制・連携のあり方

#### この章のポイント

子どもたちの問題は、複雑化し、多様化している。そのため、学校内だけでなく、さまざまな専門機関との連携が必要となる。主な専門機関について概観し、どのような連携がなされるべきかを検討する。

### 第10章 教育相談に関わる危機介入

#### この章のポイント

学校は子どもたちにとって安全な場所ではなくてはならないが、近年、校内でも通学路でも様々な事故が起こっている。子どもを危機状態に追い込む出来事とは何か。危機状態に陥ると子どもはどのような状態になるのか。危機にはどのように対応すればよいのか。ここでは、通常とは異なる危機ならではの対応について学ぶ。

## 第Ⅲ部 家族への支援

### 第11章 子育てと家族の問題とその支援

#### この章のポイント

最近、モンスター・ペアレントに代表されるように保護者との関係に悩む教師が少なくない。また、その家庭自体が多くの問題を抱えていて、学校との連携が難しい場合も増えてきている。ここでは、家庭への対応、さらに家庭を通した子どもへの指導について、事例を通して検討する。

## 第Ⅳ部 発達相談・教育相談のための心理療法の基礎

### 第12章 心理療法の基礎理論

#### この章のポイント

心理療法は専門家が行うものであるが、ここでは様々な機会に子どもに有効であると考えられる方法があげられている。即実践とはいかないが、最近、注目されている方法が取り上げられているため、専門機関との連携の際にも役立てられよう。